續書解題

紙

和書之部完

特別
イ4
3159
A11

14
3159
A11

第五號

續書解題

漆山荻月編

國史類

三紀雜 寫本 一卷

多田義俊の作りたる日本紀四事紀古事記三書のうち抄出したるなり

日本春秋 寫本 五十卷 僧日初

事実に日本史の類を摘録したる年紀をもとなす
もっぱらで人々乃伝いを中心に萬葉集和歌の僧侶
日と称して褒貶の論を人を忘れ恩を懲
善を勧めもっぱらこれを[illegible] 世人称
紀四の宗旨すなわち[illegible]

なりたる行幸し給ふ衣袈裟袋ふくろ心と
ひ給ふ御手ずからの書て江書の書行ハ反
古のうつし書ていとうつくしく侍るを
帰ル世ニ伝ハ侍ル五年江書ハ侍ル

古史通　写本　五巻　源君美

本書四巻ハ読記ハ例一巻ハ附ハ歴代ノ
歴代のものをこゝろみて記ス

神書類

宝基本紀　写本　一巻

此書ハ聖武天皇の市田仲麿を遣化ス
ル事を作ものなるべし

葬儀草　写本　一巻

伊勢ノ斎宮記の抄ス

天地開闢記　十八巻　写本

神仏合一の書ニ弘法大師の作と云り良辰
ハ七帖見ル所ハ聖武天皇の作と

神別記　写本　十巻

伊勢宮司ハ日本紀私記ハ天皇天孫のまた
此書ハ写ものなるべしこゝろ

天書紀　写本　十巻一冊

伊宝書用ふ大納言菅原成房と云ふ人
なれども亡失して伝はらず

神懐抄　写本　一巻

一名詞宝伝抄　足利学校伝来の抄本にて五部の抄録にして陰
五代にわたる諸抄の抄を五部の抄録にして陰
陽和合のるを猥雑に流るる

元亨集　八巻　北畠親房公

開闢より伊勢大神宮の由来地神祇を神
宮伝受ふの起のるを記す

東家秘傳　写本　一巻　同上

親房公のきい名序ふ云古来日本紀をよむも
のいかるい秘しきその伝を絶ん或い暗くしてそれ
致をうしなふ心を用ゆるのたを明らめ
世を理するの術を識んと欲するの迫ふ部
文の秋典を訪ひ遠く支那の書史を決す
のこゝろ久しく我国の旧史を足祖述乃和
五代すきを都て十箇條分して東家秘伝
とふ云こ

神風和記　写本　三巻　僧慈遍

沈書のゆ櫻雲記巻の中ふ云興国元年北京
暦應二年慈遍僧正神風和記三巻を作て献
ずきこ

自従抄　写本　一巻　山崎宣加

[illegible]の巻の中ほどまで

一巻

古老口実傳　写本

[illegible]年中行事　[illegible]古物の出来事

大小[illegible]の使者狐鳥[illegible]蛇[illegible]

[illegible]の故実[illegible]

二巻

弧蓬集　写本

天地開闢の事　[illegible]生化の事　[illegible]抵系図

の事　[illegible]　[illegible]宝三種[illegible]

[illegible]　日本紀五部の出来

[illegible]

出口延佳（ヨシ）

陽復記　二巻

義俊[illegible]延佳[illegible]復記[illegible]

墨江紀畧　二巻　巨妙子

住吉社僧和魂荒魂四記宣四本社長岡十

五社[illegible]神宮寺津守寺等の事或[illegible]中

[illegible]和奇三[illegible]の事を漢字をもて記す巻

首に享保丁酉九月の自序[illegible]巨妙子[illegible]紫

野大心和尚の子[illegible]享保三年正月刊

興君草前後編　写本　一巻　浅井重遠

柄家[illegible]軍の事を記[illegible]

玉籤集　写本　八巻十本　玉木正英

玉木葦斎翁の記[illegible]

原根源　写本　三巻　同上

三種宝物の伝 神器離壓境の伝 埴土器のこと
らわる代古書数十部記録をもとして漢字
をもちひる問答かの法をもとこう

和學通 なかま 二巻 留守友信

神を儒を一帰するを天地の事理論を
てかつ世神を者の学を服を弁せし

直字辨 なかま 一巻 多田義俊

直なる正神たとすることを弁じてむりなき
のたとへをもとへをくまへをもたとらふ
もろうもを老子よいるも神たのを意ふ
りなるべき人をもとりいく

獣肉論 なかま 一巻 同上

物産所神事ふいむとりふるを論じて神代
より五十六代清和天皇の御宇までの天子の
御饌をまうし後みどりをなげうふ所
を弁す

雅史類

愚管抄　写本　七巻　慈鎮和尚

初より皇帝年代記みな神武より当代までの
君臣代々法皆行なはるゝと云へり　神武より
第六巻まで世間の物語実のやうにひふ
天下は信孔の政なりさかふもてなしる
東西と考へ考へして巻ごとに世間みな二位の
尼のまつりごとなりと毎巻毎巻の始めにあるなり
云々仏教の記録まことへ何しにかるなり
のやうなるべし

撰雲記　写本　三巻

世間何人の作るまことに知られず南都の寺院

假字を記す

梅松論　写本　一巻

作者つまびらかなる太平記軍の起るより
至る迄、梅松論南方紀伝を参考
し新書と稱す

吉野拾遺　写本一巻刊本なし　四巻

如元記

明徳記　三巻

明徳元年山名氏清山名満幸謀叛し内
野を合戦す鹿苑院殿これを討たる山名
敗亡して讃岐へ逃るの始末を記す

應永記　写本　一巻

一名大内義弘退治記とも云

嘉吉記　一巻

嘉吉元年赤松満祐一家滅亡する顛末

椿葉記　写本　一巻　足利紀五

稱光院南帝を立まいらせ皇統
に帰し給へとする所伏見宮貞成王の所
記なるべしと云

穴太記

義松院義晴公三好長慶が乱より京を
捨て近江の国穴太へ移る迄の始末を記す
吉野より京へ還る始末を記す

神明鏡　三巻
承久記　一巻
文明一統記　一巻
右仁の孔はより文明の中京都静謐まで
ひらかれを記すもの

禮儀類典　写本　五百十巻　西山公御撰
古今諸家記録類聚百部の中新撰の礼儀ふ
ゆうるを抜萃したるに別に図三巻を
附する

辞記類纂　写本　八十巻
撰者つまびらかならず　書体礼儀類典より類
日次記　写本　二百二十巻
村上天皇の御時より以来摂家代々の記録
九条兼実卿より西園寺公宣公ふ伝ぶまでこれを記
せり

諸家名記　写本　一巻

李部王記 以下諸家記録の目録し
写本 二巻 九條師輔公

九暦
写本 九巻 九條右大臣の記録し
左大臣 司馬公

西宮記
写本 廿五巻
西宮左大臣の記録し

權記
写本 十五巻 藤原行成公
行成公官位大納言に至りて猶記と号す
寛仁三年正月より記しはじむ

小右記
写本 四十七巻 右大臣実資公
小野宮右大臣の記録し

春記
写本 七巻 藤原議資朝臣
春宮大夫資房公の記し

水左記
写本 七巻 源俊房公
土御門左大臣の記録し源姓なるを以て水左の
二字を名とせり

中右記
写本 七十二巻 藤原宗忠公
中御門右大臣の記録し因て中右記と号す
堀河院の寛治元年正月より崇德院の保延
元年十二月までなるを載せり

愚管抄
写本 三巻
関白藤原兼実公の記録なりは承久の長元三年より
記せり

水日記
写本 十一巻 權大夫師時公
皇后宮亮權大夫師時公の記録し多は後の文

永二年四月より宗任の保延三年まで
永昌記　写本　十二巻　参議為隆卿
一名宰記と号し巻首に永昌卿記為隆卿
と記り毎巻月録あり　堀川院長治二年より宗
任の大治四年まで二十五年の間の記録
長秋記　写本　十巻　皇后宮権大夫師時卿
后宮の原名は長秋宮といふ故名づけられ
たり
三長記　写本　九巻　大納言長房卿
三條長房卿の記録し因て三長記と称す
殿記　写本　八巻　藤原忠経公
或い殿暦と号し種々新撰あるも別か建
仁四年の記を附す　四巻　関白家実公
猪隈関白記　写本
上陽院の建仁元年より承元二年までの記
録し
人車記　写本　廿五巻　岳新仁位記卿
此書一名岳記と号し文と名と一字づつ
異なるのみ　人車の号い云々の傷
むとあり代記卿に納言大臣と稱し
吉記　写本　廿三巻　吉田権中納言経房卿
巻首に吉侍記と記り承一巻の初承安三年
七月より起る

愚昧記　写本　四巻　三條実房公
六條院の仁安二年三月のまで記す
玉葉　写本　九巻　史料纂古按政を京伝
土御門院の承元二年三月より四條院の仁治二
年正月四三年三月ふくるところ〳〵闕巻多し
明月記　写本　九十六巻　京極中納言定家卿
初のみ思之記とす
山槐記　写本　十巻　藤原忠親公
みな重要記とせられ井山
内大臣忠親の記なりて保平公義の次のも
玉葉とす
平戸記　写本　十巻　平経子卿

民部卿経子卿の記録し民部卿の原名を平戸記
とするを平戸記と名付く四條院の延應二
年正月より後嵯峨院の寛元二年十二月まで
の平戸記とす
仁部記　写本　五巻　權中納言資実
日野資宣卿の記録し
管見記　写本　五巻　竹林院太政公衡公
仏暦十年より永享三年まで記す
萬一記　写本　一巻　大納言宣房卿
菊屋小路一位宣房卿の記録なり（第一記）
と号し銭鈇なりて正安三年四月のみのこし
吉續記　写本　十三巻　吉岡大納言経長卿

経長卿の記、紙吉冨内大臣定房公撰せらるる文永四年以降を記す

三槐抄　写本　二巻

正安三年公蔵元亨二年実忠按姫権中納言の写を記す

園太暦　写本　三十三巻　太政大臣公賢公

一名園太記と称す中園太政大臣公賢公の記録なり紙ふかく色つけて南朝の比乃記録なり北朝の盛衰の様へるを記録りて北朝の年号を用ひざるを記せるを中ゝ良好なる故歴ものつまびらかなり

後愚昧記　写本　五巻　後押小路内大臣公忠公

庚寅四年正月より同七年九月に至る記なり

北条心院実日記　写本　七巻　冨内道嗣公

北条厳院の右馬頭なり二年より永和五年までの記録し

薩戒記　写本　九巻　中山大納言定親卿

康富記　写本　九巻

権大外記中原康富の記録し応永より亨禄に至るの記す

宣胤卿記　写本　九三巻

大納言宣胤卿の記録し文明長亨延徳比乃文亀の比乃に至るを記す

二水記　写本　十巻　鷲尾中納言隆康卿
又一正記とも云ふ　はゝ柏原院の文亀四年より
すゑしるせり
元長卿記　写本　十巻
甘露寺大納言元長卿の記録なり柏原院
の永正三年よりたゞ五年のみ所存
三光院内府記　写本　一巻　西三條実澄公
編旨の事　勅書の事　女房奉書の事　柏原天皇
日の事　烏帽子の事　束帯の事　元服の事
浮雲記事　写本　十七巻　記事
百陳抄　写本　十七巻
此書の記者未詳　大体年号文暦の比のものを記す

氏族類

両聖記　写本　一巻　藤原長秋卿
両聖とい奉る方と世準拠ものとをさしていふ
夢窓系　三巻
夢窓国師の伝
往生傳　一巻
一名西方浄土伝とも
顕傳明名録　写本　十巻　筑山
古今名武の人々に対する文名をつらねて諸書より
摭ひとる所の字をもて数字よりなる
氏族号俗称時代をもとゝしてしるす
連雲系　写本　一巻

百八代桃園院より百十四代東山院まで
史乎釈之皇子皇女学の門風系
を示す

物語類

勢語通　二巻　五井純禎

いせものがたりのおほりのうちの天作文乎
朋友学の法理ふまえて修正板出十倍年
お通しやすく好釈し二条、伝奇文学のみで
りうとをもてあとをもて餘流奔放をもてる事
どもをあつめ篇として

紫明抄　第十二巻　素寂法印
河海抄　　巻　四辻善成公
仙源抄　　一巻　藤原長親
花鳥餘情　第十巻　一条兼良公
不審抄　第一巻　宗祇法印

河西総管二両抄の外小原富のうち成一条院御宮
へ入りたまひし間答のうし
弄花抄　写本七巻十三本　牧再総管相
河西総管陸奥守のあやまりをたゞして別かれ
へるうたてるうどゝなり
一葉抄　写本　十五巻十本　同上
綱流抄　写本　九巻　西三条公保公
河西総管のあやまりをたゞせるあし
明月抄　五十五巻廿本　西三条実隆公
此ものゝ綱流抄かゝ奉歌一巻をくゝりてどころ〳〵
小弼殿のし
孟津抄　九巻　九條稙通公

林逸抄　写本　五十巻廿六本　林宗二
休夕抄　写本　廿巻　里村昌休
総歌抄　写本　巻　巻
第五一歌　廿六巻ニ十二本　能心永閑
山路の露　一巻
志乃ふ草　写本　巻　小村雨春
雨夜物語　たゞこゝとて　二巻　藤原宇方伝
自枕　一巻　本ニ拾宣長
紫小抄以上巻ふ保武注釈抄
下紐　巻　巻
他者不詳　狭衣の抄し
紅葉ゝ物語　写本　六巻　蓮心庵士

往古より天正の頃にて男女夫婦の間の約
束を堅固なるものとなしたる女の
歌一首

草子歌

慰草　　拙水貞徳

ものもう野辺の花の咲みちて京にこそこの
大意をきくさくさ
草　　建涼軒

涼軒法師の歌のうちにその歌人
のものくさうのなかに奥ゆかや
しほるうんなる紙に書ふるのちて雅
語をいてゆえやすくつくるみし

家集類

六家集　十八卷

俊成卿の長秋詠藻　後京極殿の月清集　慈鎮和尚の拾玉集　西行法師の山家集　定家卿の拾遺愚草　同の員外　家隆卿の壬二集し

歌仙家集　十五卷

右三十六人集と云り大納言公任卿の撰しる歌仙の人こ乃家の集し

柿本集　二卷

躬恒集　一卷

素性集　一卷

猿丸集　一卷

家持集　一卷
葉平集　一卷
貢輔集　一卷
孰忠集　一卷
公忠集　一卷
齊客集　一卷
宗于集　一卷
清心集　一卷
興風集　一卷
是則集　一卷
小大君集　一卷
敏行集　一卷

能宣集　一卷
貢蛋集　一卷
賛之集　二卷
伊勢集　一卷
赤人集　一卷
遍昭集　一卷
源順集　一卷
元輔集　一卷
敦忠集　一卷
守文集　一卷
友則集　一卷
小町集　一卷

恋岑集　一巻
頼基集　一巻
宣之集　一巻
伊明集　一巻
元真集　一巻
仲文集　一巻
忠見集　一巻
中務集　一巻

已上三十六人歌仙家集し

三十六人歌仙歌集解雅抄　三巻

歌仙家集の中に解もてきき歌の注し之みを今年
刊す

明日香井集　写本　二巻

参議雅経卿の集し刊本に飛鳥井集といへ
雅親卿の歌撰集し此集とはやはり混ずへ
らん

敬木斉歌集　写本　十巻　二本

藤原俊成卿の家集し奥に記行の文なり

林葉和歌集　写本　二巻

俊恵法師の家集し

金槐和歌集　三巻

源実朝公の家集し

太宗大夫家集　二巻

建礼門院の女房しみなとのてる集し

忠度家集　一巻

忠度の百首し永久の集ゝにはべるに

讃岐のそ集　写本　一巻

藤原顕綱朝臣の集し

殿上和歌集　写本　十巻　一本

法金の宗尊親王の御集し

隣女集　写本　六巻

飛鳥井雅有卿の家の集し

国文集　写本　一巻

伊守玉櫛の集し此集の御み

同集みかく玉川さと云ふ字を文字にかりて

とふらふ此かりもて御集の跡をとゝてふ

海人手子良　写本　一巻

此出さ大納言師氏の作しとらけて

李部和歌集　写本　三巻

前斎の中務卿宗尊親王の御集し

元可法師集　写本　一巻

俗名業房卿 橘公義の集し

草書和歌集　四巻

續草庵和歌集　二巻

祇阿法師の家集し刊本の奥書に竟憲の

家法のかしなりとあり

草根集　写本　十五巻　二十本

正徹の家集し正徹東福寺の出家にて

微妙院と称す　清巌と号す

亜槐和歌集　三巻

飛鳥井中納言雅親卿の家集し

三玉集　三十巻

柏玉集　十巻　柏原院の御集し

雲玉集　十八巻　西三條実遠卿の家集し

俊成卿雲玉別か　龍雪と号せらるゝ公卿の家集とらへり　好人雲玉集と云む

集を雪雲玉と云

碧玉集　六巻　一説冷泉家の祖大納言村雲尼の家集し

良大納言の歌なれ共の家集し

已上三新古三玉集とも

慕景集　写本　一巻

大内俊弘守深　村雲入道　静孫軒と号すの歌

なるし　此集を慕景集とも号す　灌の拾宝の号

伏慕京撰とも　しるしなり

沙玉和歌集　写本　一巻

好宗卿の御集し

紅塵灰集　写本　一巻

好土御門院の御集し

桂林集　写本　一巻

深直弦の家集し　俊成卿の家集

春夢草　三巻一本

牡丹花肖柏の家集し

園草　写本　一巻

飛鳥井雅俊卿の家集し

新葉集　写本　四巻

北畠俊房集し

水口集　写本　二巻

一名緑羽集とゝふ北畠俊の歌集し

椒葉歌集　写本　四巻

雲元法皇の御集し

黄葉和歌集　五巻

烏丸光広卿の家集し

秀葉和歌集　写本　二巻

烏丸資慶卿の家集し

紫葉和歌集　写本　九巻

烏丸光栄卿の家集し

不時吉俊卿歌集　写本　三巻

不時吉俊卿の光栄の遺稿し

江十輪俊集　写本　二巻

江俊甫村の家集し

老槐和歌集　写本　一巻

江俊甫の父の家集し

芳雲集　写本　一巻

邵吉の歌言俊の家集し

岑白集　十巻

豐臣秀吉公少時俊の家集し俊俊東山に退隠の江長嗣子なるべい天保箱とあります

雅澄白集　三巻
作者詳ならず尋問坊と云作者もあり
道遊集　写本　三巻
松永道遊軒貞徳の家集し
廣澤輯藻　四巻
貞注の人々の月長孝の家集し　四巻
左京大夫集　写本
奥列岩山大学茂義教卿の家集し
草山和歌集　一巻
保章之改上人の詠草し　詩集を草山集と云
漫吟集　写本　七巻
賀仲阿閣梨の家集し

晩花和歌集　写本　二巻
下河辺長流の集し
三家和歌集　写本　三巻
万一巻　長慎　万二巻　長流　万三巻　賀仲　注
三人の家集し
醉露軒和歌集　写本　三巻
河瀬菱雄の家集し
年益草　写本　七巻
似雲法印の集し
樗葉集　写本　三巻
菊宮宣易卿法印の人丸神宮寺秋陽の文集
し歌集若干巻ありし歌集若干巻ありし

春葉集　二巻
荷田春満の集し
縣居歌集　一巻
加藤吉閑の集し仙人後京のこゝろを上田秋成
りけるこゝろもの引ふりの平五郎し
静舎歌集　一巻
塩原宇方彼の奇集し
古河乃多　なを本二巻
吉閑宇方彼の歌と文とをあつめたる上
田秋成の序なり
文布　二巻
吉閑の仙人後文女の集し

和とよむ歌
近江の伊海屋国この名和を名くるとよむる歌
と詠るの中をぬき出て部類編とりて奇
妙一夜花とふ巻中ゆゑ大雅以下数人の
画を加へたり
抹山集　二巻
長伯の仙人川井立牧乃家集し
三藻類聚　三巻
冷泉為村の仙人東都宮新義正同宝筆
女同男義直三人の詠草を新撰するあり
三藻日記　二巻
同一人の詠なり

相生比古集　一巻
義経夫婦の旅路を詠ませ給ふ所の有るより
世中り岩松の市の旅つゝまこと尽る

詠屋集　五巻
本居宣長の歌集も一二三の巻迄調のこと
世の巻古風の奇五の巻長歌も

志野乃葉草　三巻
源宗国翁乃美行ものを信九之巻を詠ませ給
松の日乃為茶の市長の奇を一冊に記す
新歌なり

地理類

諸列記ぐらも　七巻　貝原学位

巻之一二　西北紀行上下　山城西那　丹波丹後長狭
西近江号の路程を記す
巻之三四五　南遊紀行　上中下　山城　河内　和泉
紀伊大和
巻之六七　拾遺候諸列記ぐらも　美濃　関東より越
前敦賀迄　摂州高槻　那須　砂子　宮城　仙台記す

士峰　六巻　三冊　賀徒菴
駿州富士乃ものを詠る　詩歌和文漢文学を採
録す

若耶辞誌　二巻

若狭一國のうたをあつめ
懐橘談　三巻
おなじ一國のうたをあつめ名
所古蹟より佐諸のうたをあつめこれを巻

詩文類

文境秘府論　六巻　空海

詩式文体を論じ、声韻の事を述べ住
句を論ずること一巻とする

海北集　廿巻　席案和尚

東海の席案和尚の詩文集なり

寂室集　二巻　沙門寂室

江州永源寺の開山玄之寂室の集なり

帳中香　廿一巻五十本　漢楊美国

白居易集のおなじ

四河の海　百巻

東坡詩集のおなじ

翁林葫蘆集　写本　一巻
此書は禅僧宜作が詩集し

半陶稿　六巻
相國寺住侶の著述菊花周興の集し　一巻

彭叔和尚稿　写本
南禅寺の寺住東福寺の住彭叔守仙の詩偈文章の集し　一巻

宗休和尚稿　写本
妙心寺宗休和尚の詩文集し多く永正天文の比の著述なるべし　二巻

牧雲集
一休和尚の詩集し

梅洞集　四十巻　林春信
弘文院学士の嗣子春信の詩文集し

讀耕全集　廿巻　林春德
羅山の次子讀耕春德の詩文集し

活所遺稿　十巻
熊沢子同の詩文集し

老圃集　三巻　熊沢木菴
子同の詩集

霞時集　三巻　石川丈山
丈山の詩集し

苔山集　廿巻十冊　河内之改
城州淀草堂老人の住持之改の詩文集し

谷口山詩集　六巻

此書は草山集より在の中より詩體の詩のみを抜きとりたるものし

失波苏話　一巻　林春信

此書漢文より皇朝の話話文語をもまじへたるもの

人鏡論教訓類　三巻

此書は刊本金持宝記と題せり荻原中務といふ人をまねびて教訓の心ばえを主として文章人情世態をいとけなくもの云こゝろのし

釋書類

拾集抄　九卷　西行法師

寿永年中西行遊物善通寺に於て作る所の方外の人にして殊勝なる法を行ひ法の君のうつを此書に示す

戲岳要記　二卷

此書古写にして戲山開闢の事実を載せ

詫峰縁起便覽　二卷　沙門光榮

多武峰縁起乃記

月乃もるゝ　一卷　法物博元説

古今不宗意を記すなり

字書類

倭名類聚鈔　廿巻一本　源順

天地 歳時 鬼神 人倫 形體 術藝 職官 國郡 居處
舩車 牛馬 宝貨 香菓 燈火 布帛 裝束 調度 飲食
稲穀 菓蔬 羽族 毛群 鱗介 虫豸 草木 字の部分
ちてこと〳〵く倭名をしるす——文字はおのおの辨色
立成 楊氏漢語抄 倭名本草 日本紀私記 其餘數十
部の書を引てこれを考へしるす

新撰字鏡　十二巻ノ本一巻　僧昌住

総目ハ天ノ部 日ノ部 月ノ部 雨ノ部 風ノ
部 火ノ部 建火ノ部 人ノ部 人ノ部 人ノ部 水ノ部 次
第〳〵ト ノ部 皮ノ部 以上偏冠 字を集む

此次第字様此新らしい顔　如何也久加加　田女田女
焚　かゝ加方志これ〳〵の字を付て　重点
新これらい惜代　拍代田又　拍止留久平素　太代良分
志字は誤字を正す　巻こう

平他字類抄　字本　四巻
平字と上去入の字と同類のものあつめてある
ものし

和訓切韻　一巻　藤原孟光
原計の大体とする　押韻の文中文法の字
平他同訓の字字のみをのせる
海花略韻　十巻　今本二巻　序実法師
平韻の字を注してかゝむ巻末
誤字を付つむ巻末

小塵代紙運　同異　国記会記集校
草合字書代字人長名字を附す巻首
引用書目百餘新を付す

下學集
天地時令　神祇人倫　家屋器財　衣裳　態藝
器財草木　言辞　畳字　字名　十八門
分ちて初学の為和漢の字義を注釈す
林道春

多識篇　五巻
水火土金石草穀菜果木服器鳥獣介禽獸
人名の新を分ちて和名を考　注を附す巻
末に元の王禎が農書の器物を挙げてこれを
の器物を挙げてこれを和訓を附す

日本釋名　五巻　貝原篤信
天象　時令　地理　宮室　器用　衣服　雜器
居室　器物　人倫　官職　和訓の字を釋す
東雅　字部　十巻　源君義
天文　歲時　地輿　形体　人倫　官職　器用
飲食　穀蔬　果蓏　草卉　樹木　禽鳥　畜獸
鱗介　蟲豸　字の形を辨ずるものなれども名の釋
すべきを新たに
同文通考　四巻　同上
倭楷正訛　一巻　太宰純
本邦の俗習りもちゆる書の正畫なるあり
やまとの俗語のなまりあるものを挙げ
漢字和訓　八巻三本　井深長秀
天文　地理　歲時　居室　器用　衣服
飲食　穀蔬　門部　草木　記事本
紀古語拾遺　第集集　明月記　字の国訓
の語書乃ち漢土の史漢　新書　俗字字の
ちなみ二字三字四字五字　熟字を採出して
のく和訓を附す
新撰和訓　字部　十巻三本
居長　和訓　新撰次和訓　巻の一と同じ

の巻をもつて上巻に仮字を事物を考へ
中巻に字を下巻に和訓の義を解
す

和訓叢林　十巻　海北若沖

日本紀　古事記　日本後紀　続日本紀　類聚国史　延喜式　和名抄　第六巻
新撰姓氏録　古語拾遺　文徳実録　三代実録　日本霊異記　新撰字鏡
古今和歌集　伊勢物語　源氏物語　枕草子　紀貫之土佐日記　和泉式部日記
紫式部日記　更級日記　和歌童蒙抄　袋草紙　俊頼髄脳　和歌色葉
仮名書位　後拾遺記　文徳実録　引用書目　ひらがな和訓の義を
のべたるものあるべし

十巻を以て二巻とし巻頭に和訓指掌
略一巻を附す

和訓栞　六編　十三巻十冊　谷川士清

すべての一字二字ならびに五十音ならびに和
語を標おのおの仮字をもつて訓詁をつけ
語をあげ古語を例すべきあいだ
をさし　すべての二字を比類せり

古文標　一巻　楫取魚彦

和字正濫抄いろはの次に古へ
ものなるを和製神代紀のをとめ
ひらがなしるあるべし　第十巻の末に人の世に
生まれ今のさまに成り行古文標なり

[illegible]

漢字三音考　一巻　本居宣長

漢音呉音唐音の三音を論じたるもの

[illegible]

外国の音四つきるを[illegible]

物のごとく[illegible]天竺国の音を獻[illegible]

靈語通　五假字篇　一巻　上田篠丸

雑書類

語園　二巻　一條西良公

漢土の故事を諸書より採あつめて和訳したる

出る

新語園　十巻　了意

西良公の語園にならひて漢土の故事を成片假字

にそなへたる

本朝語園　十巻

[illegible]公の語園にならひて本朝の故事を

諸書より抄出しこれに俗語を加へやさ

すく記せり　新板

天地　帝王　人倫　存生　和歌　詩文

才智　法令　書籍　書畫　雜藝　武勇　逆臣
強力　醫陰　石相　異伝　雜事　隱幽　好色
無常　飛仙　釋文　天地　神祇　祈感　託宣
祭祀　鬼魅　怪異　妖霊　獸　蟲　草木　器物
毎條の下に番号の語句をもつて引書の
名を記す

江談　写本　三巻

大江家の人々が詩文を論ずる談話をも
て江談と名づく漢字を用ひる

古事談　写本　六巻

王道　后宮　臣道　信行　勇士　神社
仏寺　寺宅　諸道

物のてをの新をもつて物の名を付
ることをもつとも古い字を用ひる
伊勢物語女が観音を拝して買ひ求めしとりかへしの
巻の好駿馬の骨を買ひ求めしとりかへしの
文方奥州をさす　清少納言枕冊
和歌式部を通ずる　光倉阿闍梨
のをさす　数百箇の古物を

續古事談　写本　三巻

書體上に同一

壇嚢鈔　七巻十五本　行誉

僧俗の故事のうち実五百三十六箇條国字を以て
記す

塵添壒嚢鈔　廿卷　十五本

諸書の五百三十六箇條を添加して都て七百三十七箇條となる

世諺問答　三卷　一條兼良公

本邦最古の俗語を書列ねたるもの

齊東俗談　七卷

俗間通用の言詞を分て注釈す

本朝俚諺　十卷　井沢長秀

俗間のことわざ俗語を集めたるもの

数年あり史記を引て之れを糺す世最千五百七十箇條を列ねたり一百年或い九字なる事世に知られたるもの

廣益俗説辨　五十一卷　同上

世俗よりいひならはしたる俗説を挙げ和漢の書を引て之れを糺す

新俗説辨　五卷　同上

諺草　七卷　貝原好古

自序にいはく乃文字を問ふたゝ之を下かる川諺の出所なを考へ深く俗語を考へ次ふ以ゆるまりと云ふ詞を以て之を部分ふ俗語まろこのふみ好るあ吾國の詞を文佛出ふ出るこれふ書雅の詞を文を記しを拾ひとろこの考へ好るを

まゝ〳〵て茶話はつを正えてもたゝなゝ門

かゝるものゝ事なり

和事始 六巻 同上

漢事始 六巻

和漢事物の由て起るところを新編をもちゐ和漢の書を考へてもとめたるなるべく引書の名を所す

大和事始の沿革に関する国学者論争 二巻 小山儀

臆說辨 写本

俗說を和漢の出を考へられて臆說をたゞしその実を証せり引ところ出典の明らかなるこゝろ

大東世語 五巻 服部元喬

皇国人諸書に見えたる故事名言を漢文

文に譯せて世説に擬せ作れり

皇朝事苑 四巻 竹常

皇朝の事実を古書に考へ漢字のまゝに類をもとめたるもの

善隣国寶記 三巻 風渓和尚

皇国漢土及び朝鮮と往復の書簡を記せり和漢通信の由来をしるせり

馭戎慨言 四巻 本居宣長

皇国いにしへの政事を述べ近世文弱慶長の比豊臣氏の武威をうやまひ朝鮮を皇国と属土の解よりはるかに遠くなるこゝろをもとどめんこゝろざしなり

地理書は漢土の書ふみなれども
いにしへより皇國をかたしけなくもとりはさ
なりふ論じしる書りて中古より漢学此世よ
い流行せしのち人形
ずなりぬるふみなれども世に皇國の
言葉をふかくふるく世に皇國の、
とさして駁戎慨言のやまとごころをさあらく
れしことをふとなるすし序ふるなり

一巻

本邦事跡考　本邦人物地理土産行事学をしるす　服部中庸

三大考　一巻

本居宣長著すところの古事記の附巻なり
て天地国乃なりすなわち地球の説論じて国を
なりすしるる三大とい天と地と海とをいふ

一巻　本居宣長

此書は道の大もと今此世のしれる
てたるものにして欲なもよりて出たる中
の国をとりてかく名つけしるすし
なるしい
可ふかたぬ物かりなるをくしけりけてなるす
中乃こと論説

宇治山騙　一巻　同上

此書は初学のとものためにかまなびをこなひたるもの

和學辨　三巻　平維章

本邦の古書などの中に語字脱字なるもの多く
其餘律令格式の説も能世紀扶桑畧記日本
史畧等のものなどに今昔の和語の詳畧の
ことなるもの多く漢土のものに替
ものなるもの多くなりぬ

衛口伴　写本　一巻　藤貞幹

皇統　言語　姓氏　国歌　神璽　年号　容飾
衣服　喪葬　祭祀　柏手　和歌　詩賦　国史
制度　等比倫をとりて日国のいまへのものなる漢
土朝鮮琉球などのものなりなる臆断を
日本紀をよむに此国の事に馬韓辰韓な
ひけりこれ弁韓のこと相ずいるとみるべきを

仏ふるものなれど解ものとい
況なる所あるべしとなり

鉄狂人　写本　一巻　本居宣長

此書は蒙古の衛口伴なるべし

好古小説　二巻　藤貞幹

好古日録　一巻

集古十種

壬月録

洞富京亭　硯　楽器　甲冑　馬具　刀剣
弓矢　旌旗　鐘銘　鏡銘　扁額　古瓦紙
ぶし

花押藪　七巻　九山可澄

續花押藪　七巻　同上
古押譜　六巻　杉崎祐之
古今茶人花押藪　一巻
雅遊漫録　七巻　大枝流芳
白鷹記　一巻
二条良基公の手紙の文じ
経典題説　一巻　林道春
経書の名を巻之一に書の大意を記す和書の類
りかれとも之ともに本書以外諸方と合刻するを以
てこゝに附す
辨疑書目録　三巻　中村篤平
同音書目　同名書目　両名書目　古今書目
略名書目　読曲書目　植字書目　足利書目
法巻書目　法紙書目　本朝作者書目
為名未詳書目　名数書目　新書々目　書写書目
以下の辨疑書し
世俗浅深秘抄　二巻
上巻　上皇所幸所殿上人必不可依位階事以下百四十
六條　下巻　牧觀幻幸上皇所袍色の事上下百三十六條
此外菩提院入道関白乃記等を載
海人藻芥　一巻　僧正宜守
此書は中ノ所門中納言宜方卿の所子惠信法橋正宜守
乃作りて雑々北条氏の事を載せり
閑居友　二巻　慈信和尚

翁問答　二巻　中井興右衛門
自序ふひとりはなしと題して小学者との
問答ばかりなり　翁問答と名付ると
題例　一巻　貝原篤信
経史の題をやまとふうに題をくわしく
とかせたるいろいろの例とかの例とをとりあつめたり
和語要領　三巻　太宰純
初学のためにまづ漢土の書物すむ捷径をこしらへさと
す朱引の法のごとやまとにして　和題の法を古
詩十九首みなやまとにして　春景の自序
なり
古学要原　一巻　松下見林
古学は漢土の学問の仰そうるうち吾国
漢音のみ和訓のおもなるものをふくるを
ものの注釈なり　沿革抄五巻なり
無言抄　二巻　三宅　木貞斎人名
此は連歌式目の濫觴いろはの詞四季の詞季に
なるべき詞をあつめたるものなり
地錦抄　七巻
埴瀬地錦抄　八巻
廣蓋地錦抄　八巻
地錦抄附録　八巻
春草　自序　二巻　伊勢貞丈
此書は武家の礼法故実等のる故

[illegible]
[illegible]
我家のすしたこと
阪の古流・祖述すること
巻の上　弓矢のこと
宮藤与左衛門　[illegible]
与左衛門尉　蓋用のこと　ぬたぐのこと　[illegible]
[illegible]　朝倉氏の弓　第五十條より
[illegible]　巻下　うりげのこと　柳筈のこと　敵のこと
鞆のこと　弦袋のこと　野矢のこと　的の始のこと
まきこしまのこと　三的のこと　笠掛のこと　犬追物
始のこと　[illegible]　第一條より第百條まで

夏草　宝永　一巻　同上
歩射新十條　騎射新十三條　追加一條

秋草　宝永　三巻　同上

巻の上　武器新七條　人数新人体新
[illegible]世七條　従者新十一條
巻の中　女新九條　衣服新十條　刀剣新
九條　家作新五條
巻の下　酒食新十四條　道具新九條　進物新八
條　祝儀新九條　出車新四條　雑事新六條

冬草　宝永　一巻　同上

空穂秀　飾蔵秀　甲冑名秀　洗革踏秀　弓材秀
辻慶七道具秀　武士学文問答学十二條

古典新を合せて四季草と称す

圓珠経　字なし　二巻

本邦いまへより伝へ来る法華の抄なし法華
経象珠経といふ鄭玄か疏か同仲弓子游等
撰定す論ゝ綸し法書にて世務を経編すべき
ものの故か綸なりといふ円郭と家とふ
故か輪なりといふ嵩注を蘊合す故か理しと
ふ篇章序所り故か次しといふ云ことれかよ
りてなづけこるし

命世才　六巻

趙註孟子の古本し史記か命世の宏才しと所を
以てかくれどもこの外題を与ふ法おいまへ抄

本りまことくをこと長をつけこる孟子の本経
ふ伝こるる法治すいまる外はのまるれども字
治ノ悪反所載公の台記か永治元年か孟子十
四巻をくふ孟子音義二巻を学びこるる又
えこる永治元年八月をまる反ふるつ十六年し

明治廿一年九月廿七日浴北於三河島寓居

蓋ゝ蓋人孫山[illegible]識